

光と影から見解く撮影場所 昭和七年小津安二郎作品

## 「大人の見る繪本」

### 生れてはみたけれど」

宮川 達雄

はじめに

二〇一四年四月一六日および五月一八日の蒲田モダン研究会にて二回連続で昭和七年松竹蒲田映画作品小津安二郎監督「大人の見る繪本 生れてはみたけれど」のロケ地の解説本をもとに、講演会と実際の現地をめぐるまちあるきをさせて頂いた。

蒲田モダン研究会の鍋谷氏が以前よりこの映画のロケ地に関して「あれは一体どこだろう」と幾度も疑問を投げかけてきた。戦前の松竹映画が蒲田に撮影所を構え、多くの作品を制作していたことは蒲田モダンの一つの大きな出来事だという認識はあったが、この「大人の見る繪本 生れてはみたけれど」を見ているうちに彼の疑問がなるほど自分の疑問となりそれが次第に中毒のようになるとは思わなかった。撮影地探しに火がついた。

小津の昭和二八年制作「東京物語」はとても有名だが、戦前の無声映画時代の作品はあまり知られていない。この作品は松竹の昭和七年六月三日封切の無声映画だ。同年のキネマ旬報ベストテンで一位を獲得している。

映画は昭和六年から翌年にかけて撮影されたようだ。当時の松竹蒲田撮影所の作品は撮影所の近辺でロケを行っているものが多い。そういう意味では鶴の木出身の私が撮影地探しを開始するには「土地勘」が役立った。大部分の撮影地に「こちら辺」の見当をつける事は容易だったが、さらに詳しい「ここ」を探すのには、かなりの時間を費やした。いまだ全容が解明されたとは思っていない、この映画の撮影地探しは現在進行形だ。

私は映画の場面から当時の地図や空中写真だけをたよりにロケ地を探り始めた。極力小津に関する資料や論文は参照しなかったのは先入観を持ちたくなかったからだ。映像シーンが持つ情報、すなわち、道路、鉄道、土地、河川、側溝、建物、木立、電柱、煙突、鉄塔、望楼、交番、看板等のランドマーク、そして陽の光や影を元に方角や撮影時間帯の分析を重ねた。撮影地点を特定するまでの過程にはひどく「想像力」を働かせなくてはならず、そこに主観や推測が入り込むのは致し方なかった。

ページ上部のQRコードをスマートフォンやタブレットで読み込むと、国土理院の昭和十一年の空中写真を見ることができま

## ①トラックが道エンコした道



時代背景  
関東大震災後、都心から転居する人口で、郊外へ都市化が拡大し、鉄道会社は敷設事業と同時に宅地開発、学校誘致、遊園地建設を行いながら利用者を増やした。蒲田・大森ではすでに省線電車の蒲田駅（明治三七年開業）大森駅、蒲田電車庫、矢口発電所（震災で倒壊）運用され、私鉄の池上電気鉄道（大正十一年）目黒蒲田電鉄（大正十二年）が蒲田に乗り入れていた。

## ②岩崎邸のテニスコート



明治後期、池上徳持町に競馬場が開設されたが、当時は大森から乗合馬車で池上まで観客が来ていたに違いない。ところが、馬券法の問題で四年後に廃止になって放置された。大正中期から昭和初期にかけて耕地整理が進み、競馬場跡や田畠が碁盤状に造成され、最終的には電鉄会社の田園都市株式会社（目黒蒲田電鉄）が分譲した。鉄道沿線の宅地化はインフラの整備（道路、電気、ガス、水道、下水）を伴い、商店や医院、公共施設、学校等が整備されて行く。鉄道駅前の商店街が発生したのもこの時期だろう。

昭和七年、荏原郡が東京市に編入され、蒲田区・大森区として出発した。東京市になったのだ。この映画は図らずも、この大変動の時期にこの地域で起こっていることを映像として記録した大田区にとって第一級の資料だ。

## 撮影場所を追う

映画はエンコしたトラックのシーンから始まる。引越しのトラックが轍にはまって父親が克蘭クを回している。ここは旧池上競馬場跡であろうと直感的にわかった。当初映画をユーチューブでみていた時には気がつかなかったが、DVDでみると全く違う二つの方向の、はるか遠くに電車が走るのが見て取れる。目蒲線と池上線の電車であろう。そこからこの場所が現在の池上七丁目付近であることが推測できる①。池上線方向の彼方に煙突が見える、大城通り沿いにあった内外毛織の工場だろう②。

父親が子供たちと別れ専務の家に挨拶に向かう（映画では池上駅方向に歩き去る）行き着いたところはテニスコートのある洋館だ。当時、大森区・蒲田区で洋館とテニスコートとの組み合わせといえば、まず大森山王か田園調布を想像する。昭和初期の地図と空中写真、当時のテニスコートの歴史等の資料から、田園調布の宝来公園へ向かう途中の右手にテニスコートが見つかった②。映像で子供達が門から走り去る場面でお向かいの家の門と樹木を現地を確認した時は興奮した。元々、大森にお住まいだった銀行家であったご当主が田園調布にテニスコラブと卓球クラブを建てたそう。残念ながらお向かいの家の門は数年前にはなくなり、映像にあった桜の木は剪定されて小さくなったが今も現存している。

③ 弟が亀吉に出会った場所



④ 吉井邸の庭



⑤ 朝の踏切



⑥ 矢口小学校



⑦ 学校をサボった草っ原



引つ越した後、弟は原っぱに遊びに出る。ガキ大将たちが歩いている場面は池上競馬場跡①、それに続くシーンの背後には「黒澤村」の給水塔②がみえる。現在の蒲田電車庫の北側付近だ③。(小津の昭和四年作品「突貫小僧」にも黒澤村が登場する。この映画の弟役の突貫小僧こと青木富夫が主役だった。斎藤達雄と坂本武も登場している)父親が歩いてくる背後には架線の終端を支持する傾斜した支柱が並んでいる。残念なことにこの独特な支柱は四年前に姿を消してしまった。この蒲田電車庫は松本清張の小説「砂の器」に殺人現場として登場し、映画化もされている事でも有名だが、小津は三十年も前に映画にしている。

朝、父親は線路脇の庭で体操をしている。庭先を頻繁に電車が行き交う。子供たちと父親は一緒に家を出る。玄関前の道に出るとガキ大将たちが待ち伏せている。その道の先にも電車が横切る。家と線路の位置関係に大変苦労したが、庭は池上線の池上・蓮沼間だろう④。線路の向こうは広大な空地の様だが、電柱が整列しているところを見ると前出の池上競馬場跡ではないだろうか。一方、玄関先の道は後のシーンで明らかになってくる。

父親と子供達はカーブする線路脇の道を歩いて踏切に来る。電車が走り去るわずかな右カーブ、ガード、染物屋が見える。

朝という設定で当然「朝日」だと思っていた陽の光は実は午後の日光だと気がついた。冬の午後、太陽が低い時の光は朝日と見分けがつかない。方位が判明すると、そこは目蒲線矢口渡駅から蒲田方面に向かって三つ目の踏切だった⑤。現在は環八のアンダーパスの真上に位置している。踏切の先には六郷用水をまたぐ橋、望楼が見える⑥。ここを更に進むと右手に矢口東小学校があるはずだが、道の左側に学校が現れる。

学校を左手に見て歩く子供達の先にまた電車が見える。先ほど渡った踏切の道の延長上にある矢口東小学校は道路の右側にある。手前で右に折れて矢口東小学校の南側の道を東に進むと池上線に当たるが距離的にずっと遠い。逡巡した挙句たどり着いた結論は「矢口小学校」だった⑥。現在の踏切は第二京浜を跨ぐために盛り土上にあるが、当時は平面で多摩堤通りと交差していた⑦。遠く久が原台の木々が望める。門前の兄弟の背後に矢口渡駅に止まる電車と煙突が見える。

兄弟は学校の門まで行くが、そこから引返し原っぱで一日を過ごす。この場面は同じ道を往き来して撮られており、道端の建物が二度映る。道の先、左側に銭湯だろうか白い煙突が見える。ここにはかつて堀川湯という銭湯⑧があり、この原っぱの位置が特定できた。矢口渡駅から二つ目の踏切のすぐ北側、現在はまさに環八道路上にあたる⑦。

⑧ 吉井邸の道  
玄関先の道



⑨ 派出所



⑩ 五銭玉を  
拾った空地



⑪ 鉄道省官舎



⑫ Y 字路



⑬ 矢口幼稚園



子供達の帰宅後、父と教師が歩いている場面は一つの踏切、吉井家の庭先左前の踏切と、朝の玄関前の道の先の踏切だ。後者の踏切の背景建物に「日東・ペイント」と読める。旧地図で武蔵新田駅東側、六郷用水脇に「日東・ペイント製造所」<sup>⑥</sup>とある。よって吉井家の玄関先は目蒲線の武蔵新田のマルエツの前辺りだと判明<sup>⑧</sup>。朝走り去る子供達の間、注意深く見ると、うっすらと灰色の巨大な建物が遠方に見えるが、大森のガスタンクだ。

自分を引き連れた亀吉が五銭玉を拾う場所は、それに続く交番（実在した蒲田警察署道塚派出所）<sup>⑨</sup>の位置から辿ると、蒲田駅の西、環八の西蒲田八丁目、新蒲田一丁目辺りを中心に撮影していると推測する<sup>⑩</sup>。当時の目蒲線は、登校時の踏切辺りから南側へカーブし、道塚駅を経由、国鉄線路と並行して蒲田駅に至った。戦後、現在の様に池上線と並行する線路になった。線路跡の一部は東矢口三丁目に細い道路として残っている。「道塚駅」はかつて「本門寺通」といい、駅から北へ向かえば池上本門寺へ出られた。南に向かうと交番や蒲田電車庫の斜めの継線柱列<sup>⑬</sup>を経由し六郷に向かう。子供達が右往左往する原っぱは旧目蒲線線路の南側、道塚駅の東側だ。駄菓子屋の屋台の背後には、僅かだが電車の架線らしきものが確認できる。また、シーンによって登場する子供たちが違い、建設中の建物の進捗の違いが見て取れる。

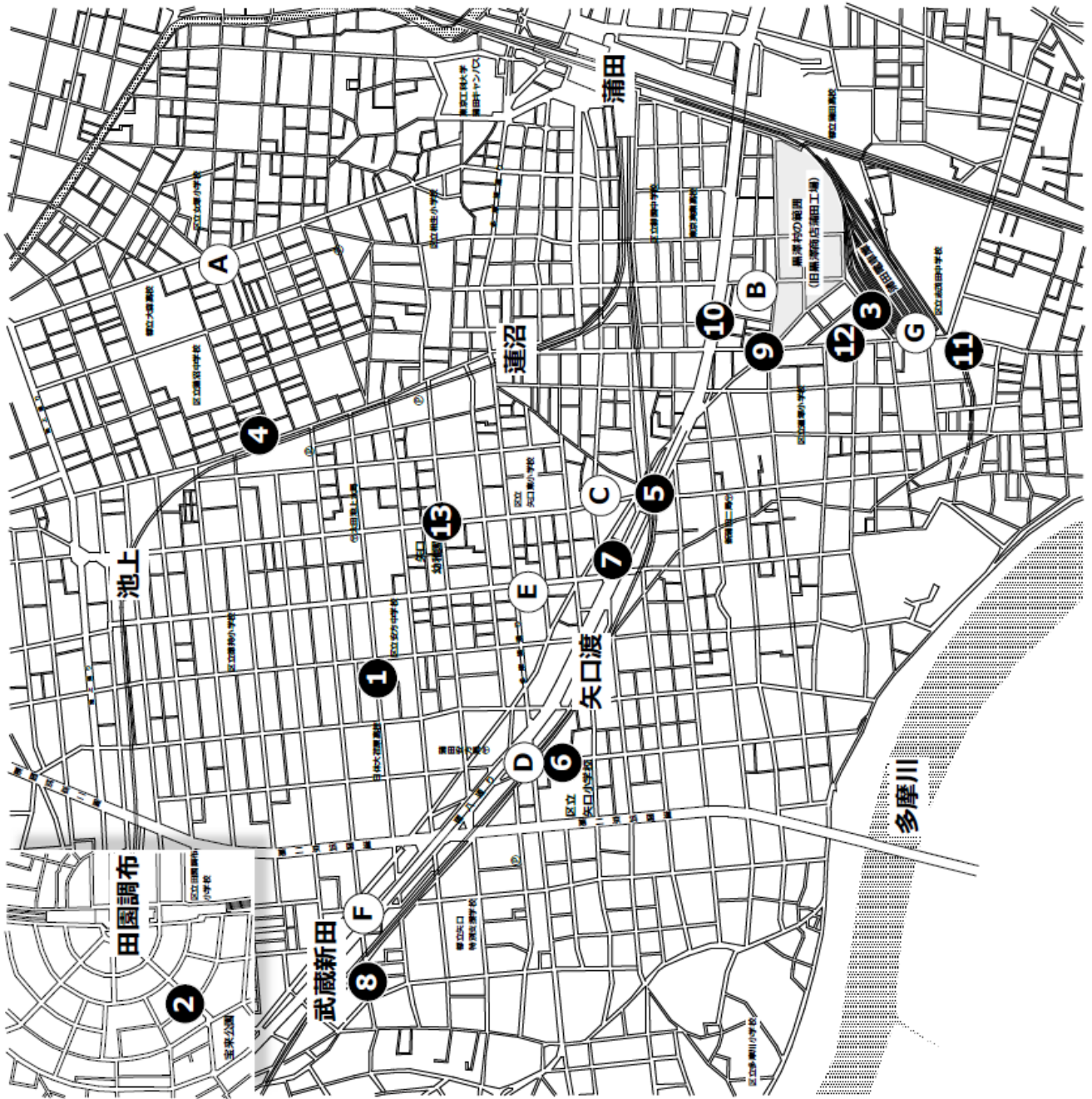
舞台は突如蒲田電車庫の南西側に飛ぶ。かつてあった省線矢口発電所の引込み線の脇にある鉄道省官舎<sup>⑪</sup>に駆け込む。酒屋の小僧の助けもあつて亀吉を懲らしめ、遂に兄弟が子供らの主導権を握る。そして、電車庫脇から新蒲田三二二一九のY字路<sup>⑫</sup>でたむろしながら、皆で父親自慢をしていると、弟は父親が車から出るのを発見する。

専務の車が止まった場所は新蒲田のY字路とは全く違う場所だ。専務の息子の太郎の後に「矢・・」という白い立て看板、交差点方向アングルの左に同じ看板が見えるが判読不能だった。様々な資料から「矢口幼稚園」<sup>⑬</sup>だと確信する。「矢口幼稚園」は東矢口一丁目の交差点に現存する。交差点方向と子供達に向かうアングルに矛盾がある。日光や影の分析から、交差点アングルは北向、子供達正面アングルは西向だ。あえて交差点から南、東方向の映像がないのは道路工事中だったのだろうか。ちなみに、この交差点は登校時に渡る踏切の延長上に位置する。

以上、ハイライトで撮影箇所を巡ったが、大いに役立つのが大田区教育委員会編「地図でみる大田区」と国土地理院空中写真だ。かつての地域の姿が残る映画はこれ以外にもたくさんあるが、ぜひ手始めにこの映画を見て欲しい。約九十年前の大田区の姿がそこにあるのだ。

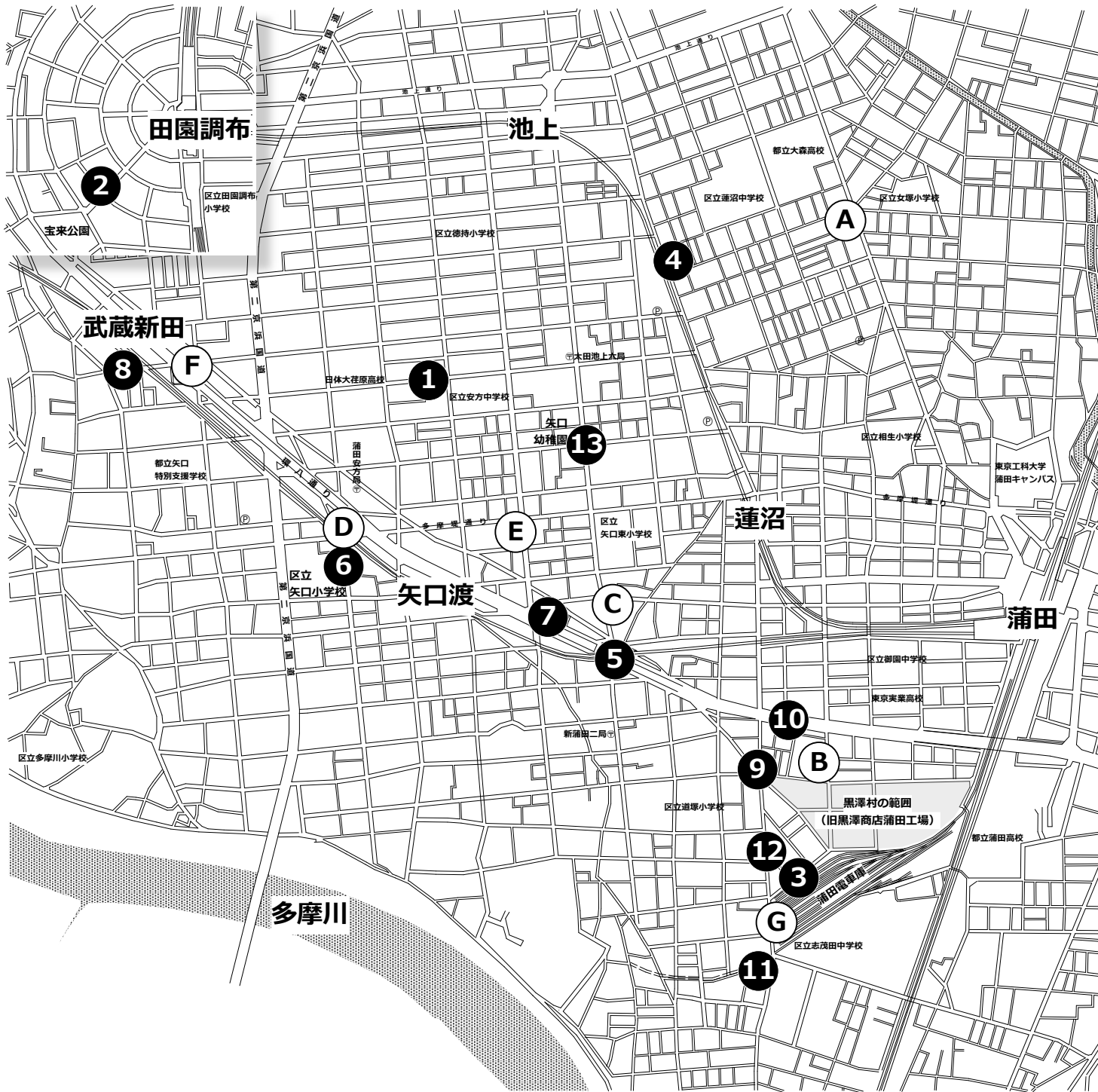
了

「大人の見る繪本 生れてはみたけれど」  
撮影スポットマップ



- ① トラックがエンコシした道  
大田区池上7丁目31-15付近
- ② 岩崎邸のテニスコート  
大田区田園調布3丁目21-9
- ③ 啓二が亀吉に知恵の輪をとられた空地  
大田区新蒲田1丁目20～22付近
- ④ 吉井邸の庭  
大田区西蒲田2丁目8-25付近の線路ぎわ
- ⑤ 朝の踏切 矢口渡3号踏切  
大田区新蒲田2丁目9-10 (環八アランダ-バス上)
- ⑥ 小学校の校門 (矢口小学校)  
大田区多摩川1丁目18-22
- ⑦ 兄弟がさぼっている草っ原  
大田区新蒲田2丁目8～9付近 (環八上)
- ⑧ 吉井邸の玄関先の道  
大田区矢口1丁目19-1付近 (マルエツ前)
- ⑨ 亀吉たちがお金を届けた交番 (道塚派出所)  
大田区新蒲田2丁目1-13
- ⑩ 亀吉たちが五銭玉をひろった空き地  
大田区西蒲田8丁目、新蒲田1丁目付近
- ⑪ 亀吉から兄弟が主導権を取った辺り  
大田区西六郷1丁目13付近 (旧国鉄官舎跡地)
- ⑫ その後子供たちが親父自慢をしている角  
大田区新蒲田1丁目22-19
- ⑬ お父さんが車を降りた交差点  
大田区東矢口1丁目6-149 (矢口幼稚園前)

- 背景に見えるランドマーク
- Ⓐ 内外毛織工場の煙突 (現存しない)  
大田区西蒲田3丁目1-10
  - Ⓑ 黒澤村の給水塔 (現存しない)  
大田区新蒲田1丁目13-10付近
  - Ⓒ 望楼塔 (現存しない)  
大田区東矢口3丁目15-25
  - Ⓓ 矢口小学校北、武蔵新田2号踏切  
大田区多摩川1丁目9-15
  - Ⓔ 銭湯の煙突 堀川湯 (現存しない)  
大田区東矢口2丁目18-8
  - Ⓕ 日東ベイント製造所 (現存しない)  
大田区矢口1丁目4-7
  - Ⓖ 国鉄蒲田電車庫終端支柱 (現存しない)  
大田区新蒲田3丁目28-11付近



「大人の見る絵本 生れてはみたけれど」  
撮影スポットマップ

- ①トラックがエンコした道  
大田区池上7丁目31-15付近
- ②岩崎邸のテニスコート  
大田区田園調布3丁目21-9
- ③啓二が亀吉に知恵の輪をとられた空地  
大田区新蒲田1丁目20～22付近
- ④吉井邸の庭  
大田区西蒲田2丁目8-25付近の線路ぎわ
- ⑤朝の踏切 矢口渡3号踏切  
大田区新蒲田2丁目9-10 (環八アンダーパス上)
- ⑥小学校の校門 (矢口小学校)  
大田区多摩川1丁目18-22
- ⑦兄弟がさぼっている草っ原  
大田区新蒲田2丁目8～9付近 (環八上)
- ⑧吉井邸の玄関先の道  
大田区矢口1丁目19-1付近 (マルエツ前)
- ⑨亀吉たちがお金を届けた交番 (道塚派出所)  
大田区新蒲田2丁目1-13
- ⑩亀吉たちが五銭玉をひろった空き地  
大田区西蒲田8丁目、新蒲田1丁目付近
- ⑪亀吉から兄弟が主導権を取った辺り  
大田区西六郷1丁目13付近 (旧国鉄官舎跡地)
- ⑫その後子供たちが親父自慢をしている角  
大田区新蒲田1丁目22-19
- ⑬お父さんが車を降りた交差点  
大田区東矢口1丁目6-149 (矢口幼稚園前)

背景に見えるランドマーク

- Ⓐ内外毛織工場の煙突 (現存しない)  
大田区西蒲田3丁目1-10
- Ⓑ黒澤村の給水塔 (現存しない)  
大田区新蒲田1丁目13-10付近
- Ⓒ望楼塔 (現存しない)  
大田区東矢口3丁目15-25
- Ⓓ矢口小学校北、武蔵新田2号踏切  
大田区多摩川1丁目9-15
- Ⓔ銭湯の煙突 堀川湯 (現存しない)  
大田区東矢口2丁目18-8
- Ⓕ日東ペイント製造所 (現存しない)  
大田区矢口1丁目4-7
- Ⓖ国鉄蒲田電車車庫終端支柱 (現存しない)  
大田区新蒲田3丁目28-11付近